



阿久根 賢一



岡理事長



『認知症イノベーション』は現場で体験したことが書かれているからこそ、響く人もいるはず (岡理事長)

岡理事長 豊泉家には、私の母が入居させていただいているご縁もあります。母は父を亡くしてから、独り暮らしをしていましたが、段々と認知症が進行して、このまま一人で居させたら危険だと思い、入居させていただきました。

阿久根 ケアハウスに仲の良いお友達がいっちゃって、お元気に、楽しそうにお過ごしいただいていますよ。

岡理事長 入居前はやはりお食事もしっかりと摂れていなかったようで、今思えば、栄養失調に近い状態だったと思うんです。だけど入居してからは24時間、温かく見守っていただけて、すごく元気になりました。実は入居しても、認知症がどんどん進行するのかと思っていました。精神科医の私の息子も、「これだけボケたら、もうだめやで。」と言っていましたので。父が亡くなって一人になってから、どんどん落ち込んでいくのだろうと思っていたら、入居をきっかけに認知症の状態は横ばいになりました。もちろん、以前の状態に戻ることはありませんが、体力的にも良くなっていますね。

阿久根 お母様の状態が良くなったことで、医師として認知症への認識を改めたようなことはありましたか。

岡理事長 認知症は周りのサポート次第で、どんどん進むものではないなと感じました。病気とは思わず、性格ではないですけど、その人の個性だと思って付き合えばいいのかなという気がします。昔と比べると、「あんなに賢かったのに。しっかりしていたのに。」と、残念になる気持ちも多少はありますが、最近はこちらが今の母の個性だと思って付き合っていくようにすれば良いのかな、直してあげようとは思わないほうが良いかなと思うようになりました。

阿久根 この度出版いたしました『認知症イノベーション～一人ひとりの“パラダイス”を創造するケアメソッド～』にも書かせていただきましたが、認知症の方をケアするにあたっては今、目の前で起こっていることを、事実として受け止めていくことが大事なのです(第五章「認知症ケアは、もっと楽しく幸せになる!」)。先生が仰られたように、ご家族の記憶には認知症になる前のお姿があるからこそ、変わっていく姿を見ていると切なさや寂しさを感じられるんです。だけどケアをしていく上では、今はこうなんだと受け止めることが、支援者としてはすごく大事なことなんじゃないかなと思っています。

岡理事長 過去には、良かれと思ってしていたことが、相手の為になっていなかったようなこともありましたか。

阿久根 過去を振り返ると、ケアする際に私たちの価値観を押し付けていたんだなという事例はたくさんあります。在宅介護をされているご家族もそうですけど、介護に熱心なご家族であればあるほど、昔の姿に戻したいとの思いから過剰な行動をとられるのです。下手をすれば、虐待じゃないかと思うほどのことをされている方もいました。言われても理解できない、受け止められない認知症の方からすると、それは拷問でしかありません。

岡理事長 病院にいる患者様でもそうです。ご家族がお食事を無理やり食べさせようとしていて、「それは危ないですから。」と言っても、「食べて元気にしたい。」と仰っていて、熱意はわかりますが、そういうことをすると誤嚥したり、そこから肺炎を起こしたり、窒息したりということも有り得ます。その度に注意するのですが、なかなか……。身近な人間が衰えていくのは、受け入れ難いですからね。

阿久根 医療の現場でも、介護の現場で起こっているのと、同じようなことが起きているのですね。

岡理事長 そうですね。夜になると夜間譫妄(せんもう)といって大騒ぎする人もおられて、そういう方にどの程度のお薬を使うべきか考えます。安易に眠らせれば良いというわけではなくて、相手と向き合い、お話を聞いて、なぜそんなに不安になっているか。そういうことを一緒に考えることが大事ですね。

阿久根 現場でのそのような対応は、看護師さんがされるのですか。

岡理事長 はい。夜間は看護師しかいませんので。

阿久根 これからは、看護師がケアワーカーの役割を担う部分も多くなりそうですね。

岡理事長 そうですね。みんな認知症に関する勉強もしていますし、対応出来るように努力しています。フェローたちには、阿久根理事長が書かれた本が大いに役に立ちそうです。

阿久根 ありがとうございます。ただ今回のこの本は、独特なものだと思っています。書いてあることは教科書にないような、現場から上がってきた話です。その為、専門職でしたら、読み進めるうちに混乱する方もいらっしゃるかもしれません。病院と介護施設とでは環境が違うところもありますが、なにか困っていらしゃったり、モヤモヤしている方にお読みいただければ、ずっと腑に落ちる方もいれば、完全に否定する方もおられるのではないかなと思います。その反応も楽しみにしています。

岡理事長 阿久根理事長がお書きになった本は、教科書的ではないかもしれませんが、教科書を作っている人たちは現場のことを知らない。理論だけで論文を書いたり、教科書を書いている先生方が多いのではないかなと感じます。だからこそ教科書的ではない、現場で体験したことが書かれているこの本の中身が、響く人もいるんじゃないかと思いました。

阿久根 介護であるか看護であるかは関係なく、認知症と向き合っているご家族や専門職の方々には、本当に悩んでおられると思います。そういう方々の心に、入っていくものを届けたいという思いがあったんです。それと教科書で習ったことと、自分たちの経験で得たものは意外と違ったりするんですね。そういうことを結びつけられる一助になればという思いもあります。